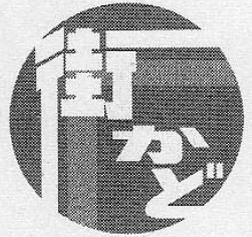


Ⅲ 新聞記事

「サイエンスレクチャー」記事
2004. 8. 7. 中国新聞（広島版）



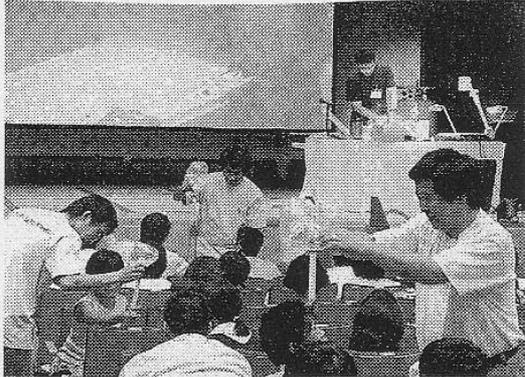
科学の楽しさ 中学生が体験

中区

中学生に科学への関心を深めてもらう体験教室が五日、基町の市こども文化科学館であった。テーマは「極低温の不思議な世界を探ろう」。氷点下一九六度の液体窒素を使

った実験で、物質を極低温にさらした際の変化を観察した。

講師は、広島大学院先端物質科学研究科の鈴木孝至教授(四六)。空気を急速に冷やすと酸素が液体になる実験などを披露した。写真。福山市から訪れた駅家中一年、佐藤諒君(三三)は「初めて見る現象ばかり。科学は楽しいんだなって分かった」と喜んで



科学体験教室は、同大とマツダ財団が連携する「科学わくわくプロジェクト」の一環で、今回で二回目。

面白さ、奥深さを感じて

「科学わくわくプロジェクト」今夏、本格始動

広大とマツダ
財団共同事業

未来の科学者たち、集まれ！。中学生が本格的に科学を学び、面白さや奥深さを感じてもら

う。広島大とマツダ財団の共同事業「科学わくわくプロジェクト」が今夏、本格始動する。大人数を

対象にした「サイエンスレクチャー」に加え、一つのテーマを少人数で学ぶゼミ形式の「科学塾」

も実施。広大などは「子どもの理科離れが進む中、正解のないブラック・ボックスをこじ開ける

科学の面白さを知ってほしいと意気込んでいる。広大によると、プロジェクトは、03年度から試行的に開始。今年は小学校教師の理科教育を手助けするため、実験のノウハウや材料の入手方法などを情報提供するホームページも開設。プロジェクトは同財団が運営費年

1000万円を負担し、

5年は継続する予定。申し込みは所定用紙に記入し、広大地域連携センターへファクス（082-4244-6057）で。問い合わせは同センター（082-4244-6134）。詳細は次の通り。

中学生対象のサイエンスレクチャー 8月5日13時半、中区基町の広島市子ども文化科学館1階アポロホール。テーマは「極低温の不思議な世界を探ろう―絶対零度と超伝導―」。定員250人。無料。先着順。

「科学塾」（高校生対象） 8月17、18、19日と9月11日の計4回、広大東広島キャンパス。テーマは「宇宙の全すべ」の在りようを決めている6つの物理定数について。定員20人で抽選、無料。申し込みは22日まで。【折野宏美】

極低温の世界

中学生知って

416.7.27
中報
広島大が来月
レクチャー

広島大は八月五日午後一時半から、広島市中区の市子ども文化科学館で

中学生を対象にしたサイエンスレクチャー「極低温の不思議な世界を探ろう―絶対零度と超伝導―」を開く。

空気を液体にしたり、原子の振動が止まる「絶対零度」がマイナス何度

なのかを計測してみたりと、実験を交えて物理の楽しさを学ぶ。超伝導を使った磁気浮上などやや高度な内容にも触れる。

広島大大学院先端物質科学研究所の鈴木孝至教授が講師を務める。

広島大とマツダ財団が連携する「科学わくわくプロジェクト」の一環で、昨年に続き二回目。

無料。申し込みは広島大のホームページからか、所定用紙をファクスして申し込む。定員二百

五十人（先着順）。広島
大地域連携センター ☎
822(424)6134。

「ジュニア科学塾」記事
2004. 8. 27. 中国新聞（広島版）

H16. 8. 27 中国

電気の正体
中学生探る

広島大で科学塾

「科学の松下村塾」と

銘打ち、少人数指導する中学生向けのジュニア科学塾が二十六日、東広島市の広島大キャンパスで始まった。広島市などから十二人が参加。大学院理学研究科、大杉節教授が塾長を務め「電気の正体を探ろう」をテーマに、楽しく学んだ。

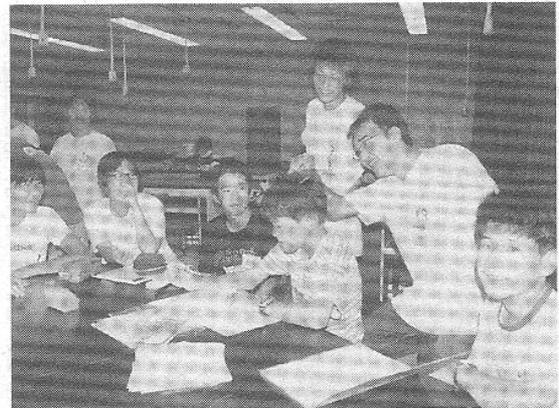
「電気と聞いて何を連想しますか」「コンセンとは何ボルト」。身近な題材から入り、下敷きや紙などで静電気を起こしてその強弱を測るなどの実験に挑戦した。大學生六人もサポートし

た。

呉市の吉浦中一年生本美咲さん（三）は「スケッチやデータを取る時、経過を残すため消しゴムを使わないようにするのは参考になった」と楽しんでた。

広島大とマツタ財団が連携したジュニア科学塾は、昨年に続き二回目は、二十六日夜は天体観測をしてキャンパス内に合宿し、中学生同士の交流も深めた。九月四日まで計四日間開く。

「ジュニア科学塾」記事
2004. 9. 4 リビウがひがしひろしま



自分たちで発生させた静電気を計測する実験などで科学を学ぶ中学生たち

中学生が大学で勉強
電気を実験で探る

広島大学ジュニア科学塾
科学わくわくプロジェクト

中学生を少人数で密着指導する「科学の松下村塾」。「広島大学 ジュニア科学塾」が8月26日、同大学東広島キャンパスでスタート。同大学とマツタ財団の連携事業「科学わくわくプロジェクト」の一環で、2回目。今回は、塾長の同大学院理学研究科・大杉節教授らの指導で中学生11人が「電気の正体を探ろう」をテーマに実験などに取り組みました。

開講式では同財団の森川一美さんが「何事も分かったと簡単に思わず、自分が分からない事に気づくように」と質問や追求する大切さを強調。大杉教授は「ノートにはすべてを書き留め、残す。間違えても後から読み返すために絶対に消さないで」と研究者らしいアドバイスをしました。

講義では静かだった子どもたちも、下敷きやテープを使って発生させた静電気を計測する実験などでは、仲間と話し合ったり、時には歓声を上げるなど興味津々。井戸末幸さん

（近大附属東広島中3年）は、「理科が好きで電気に興味があります。身近な物を使って実験できるのが面白い」と学校ではできない実験に目を輝かせていました。

今回のジュニア科学塾は、9月4日（土）までの延べ4日間実施。8月26日と27日は合宿も行い、天体観測なども楽しみました。（福富純子）